

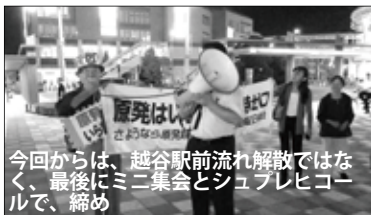
さようなら原発 越谷連絡会

会報 No.35

● 発行 さようなら原発越谷連絡会 編集委員会

● 連絡先 〒 343-0023 越谷市東越谷 1-5-17 TEL&FAX 048-962-8052 <http://sayonarakoshi.jimdo.com/>

- さようなら原発越谷連絡会は、再稼働反対国会前抗議行動（毎金曜日）と、第3金曜日には、越谷独自の集会とパレードを行っています。
- 第3を除く金曜日は新越谷駅上りホーム後方（越谷駅寄り）に、16時半集合・出発しています。
- 独自に国会前に向かわれた場合は、国会正門から見て左側歩道の国会に近い場所を定位置にしています。
- 第3金曜日の、越谷独自行動（3金脱原発越谷行動）は、越谷市役所東側の中土手広場に18時集合・開始で、どなたでも発言自由のアピールタイム。歌や楽器でのアピールもOKです。このうち、越谷駅までパレードをしています。誰でも、どなたでも参加していただける集会・パレードです。ぜひ、ご参加ください。
- お問い合わせは080-1229-3661(飛山)／080-5670-7117(増田)／090-4010-1334(石山) まで



今回からは、越谷駅前流れ解散ではなく、最後にミニ集会とシュプレヒコールで、締め

9月19日、第17回の三金行動は74名が集まりました。今までの最高が2013年4月の第1回の75名。あと2人で新記録。初めて参加された方も多くに見えました。三金行動の開始から1年半、ここ何か月は70人台には届きませんでした、それでも、60～50人台。大幅に減ったことはありません。「しつこく」「あきらめず」が定着しているのでしょうか。これからもこのスタイルで。会場カンパでは2万89円が集まりました。有難うございました。



何度目かのアンコール。スタッフ、観客を巻き込んでの乱舞。半年以上の準備、活動。解放感にあふれ、本当に楽しそうだった

女川から未来をみんなで考える

荒井まり子（女川から未来を考えるつどい）実行委員

8月10日、宮城・女川町で「女川から未来を考えるつどい」加藤登紀子トークライブ「ミニ小出裕章」が開かれました。827名の死者や行方不明が出、町の7割が流失。被災した原発を抱え、人口減少率は実質4割。「ここからどんな未来を切り開くのか」との思いで企画され、結果したイベントです。予想を遥かに超えた1500人を集めた（越谷周辺からでも複数人が参加）。越谷より遥かに小さな町での活動の結果です。複数実行委員の一人として奮闘した荒井まり子さんの報告文です。ご本人の同意を得て「支援連ニュース」から転載しました。

台風一〜号がちょうど東北地方に最も接近する日と八月一日の「女川から未来を考えるつどい」加藤登紀子トークライブ「ミニ小出裕章」の日取りが重なってしまいました。道すがら冠水して通行止めになってしまふし、駐車場になるはずの造成地は池のようになってカモメの遊び場になる。前日から私の所には台風を理由としたキャンセルの電話や「台風でも開催するのか」という問い合わせの電話が相次いでいた。ところが、ふたを開けてみると、その大雨の中をどんどん人々は集まってきた。目標としていた一〇〇〇人を超えて一五〇〇人以上の人々が、遠くは北海道や沖縄からも来てくださった。仙台の仲間は大型バス三台をチャーターし、近隣の町からはマイクロバスが数台集まった。

東日本大震災から三年半になるうとしている女川で、こんなに人が集まったのは初めてだった。一階のロビーでは地元の串焼き、おにぎり、パン、海藻、魚の缶詰・瓶詰などの物産展が大賑わい。石巻の高校生は冷茶のカフェを開いた。

女川町内で多くの人を集めるなら女川町立体育館しかないけれど、原発からの交付金（町の財政の大部分を占める）女川町が原発のイベントに体育館を貸してくれるのだろうか、そんな心配から始まったイベントだった。振り返ってみると、何もかも無茶な計画だった。町全体が壊滅状態でも場所もない、鉄道も復旧してない、道路も通行止めだらけ、宿泊施設も限られている、「女川で一〇〇〇人集めるのなんて大変」と言われていた。やっと会場が確保できたのは半年前の今年の三月になってからだ。実行委員のメンバーは全くの素人のおばちゃんたちが中心だった。

それでも私達には確信が

あった。この間、女川や石巻の仮設住宅を歩き回った皆さんの人々とお話してきて、地元の人々の多くは原発のない町、安心して暮らせる未来を望んでいるということを知っていた。女川原発建設時から半世紀にも及ぶ原発反対運動を家族ぐるみで闘ってきた阿部美紀子さんの、「がれきの中心で原発廃炉を叫ぶ」「被災した女川で、女川から希望を発信していく」という思いを何としても実現させなければという共通の思いがみんなを一つにしていた。仙台ジャズフェスティバルの音響を担当している音響のプロが手伝わせてくれたと名乗り出て下さった。首都圏原発連合は「豊かな自然とともに生きてきた女川を取り戻す」といふの成功を祈念し「原発なき社会を築きあげよう」と、支援カンパを大々的に呼びかけて下さった。地元労働組合、教員組合などは組織をあげて賛同金を集め、ボランティアアスタツフを派遣して下さった。共産党も市民党も市民団体もつどいの成功のために力を合わせた。予想をはるかに上回る賛同カンパが集まった。私たちの心配は「入りきれなかったらどうしよう」に変わっていた。イベントの後援を拒否した女川町だが、いざ始まると、町の職員である体育館職員はとて親切で、町は造成中の土地を駐車場のために無償で貸してくれた。復興商店街のあちこちにポスターが貼られ、地元の漁師さんは会場に飾るたくさんの大漁旗を貸して下さった。地元のアーティスト、アートギルドさんは、力強いシュプレヒアードでステージの裾を飾って下さった。暑さ対策にと、さかな市場からは氷の桶が届けられた。まるで女川町のみなが応援してくれているようだった。

地元から九人の人々がステージに立ち、いろいろな立場から未来への思いを語った。「お金より命だ」という大切なことを知った被災者だからこそ本気で考えた」という、地元石巻の水産加工業・高橋英雄さん、汚染された牧草や稲わらに苦しめられた経験から、「原発事故の不安をなくし、文化と希望を発信していく田舎でありたい」という登米市の農業・牧畜業を営む及川仁さん、1000年後の未来を見据え、いのちの石碑を立てた石巻の高校生など、地元の人々の生の声が胸にしみた。

学生時代、女川のボロボロの長屋に住んで、原発反対のピラを配って歩いたという小出裕章さんは「故郷を失う危険と引き換えに得る力ネに頼ることなく、豊かな海とともに復興する町になってほしい」と呼びかけた。「女川で一日が、私の人生の中でも大きな意味を持つ日になると感じている」という加藤登紀子さんは朗々と響き渡る力強い歌声と心温まるトークで会場を沸かせた。最後に小出さんも、実行委員メンバーと一緒にステージに上がり腕を組んで「知床旅情」を歌った。

たくさんの方々を結果として感動の渦に巻き込んだこの日のつどいは、今日が女川原発廃炉に向けた出発点なのだという思いを新たにすることもあった。

* 『支援連ニュース371号』（2014年8月23日発行）から転載

南越スタンディング (毎週水曜日 13:00 ~ 16:30 毎週土曜日 17:00 ~ 18:30)

●場所：南越谷駅と新越谷駅の乗り換え通路 ●参加：抗議したいこと・アピールしたいことなどをプラカードに書いてお持ちください。(団体とか政党とか宗教とかじゃなくて、個人で参加してね。) ※手ぶらでも OK <http://nankoshi.jimdo.com/>

原発反対八王子行動 (キンパチデモ/毎週金曜日)

●集合：午後6時船森公園 デモ出発：午後6時半・船森公園 ●解散：午後7時半ごろ・船森公園
●主催：キンパチデモ実行委員会 ●電話：ハカルワカル広場 042-686-0820 (西田) メール：kinpachidemo@gmail.com

さようなら原発川越パレード

●集合：10月4日(土) 15時・川越駅東口・緑地公園 (川越市駅よりの踏切脇) 出発：15時半 ●主催：さようなら原発川越の会 http://blogs.yahoo.co.jp/sayonara_nukeskawagoe ●連絡先：田中重仁法律事務所・049-226-6171

第12回 さようなら原発東松山パレード

●日時 10月18日(土) ●場所：東松山弓箭町第一公園 パレードのコースはいつもと同じ(1時間弱) 終了後、懇親会(反省会)
●共催：さよなら原発東松山の会 <http://sayonara-matu.jimdo.com/> <https://www.facebook.com/nonukesmatsuyama>

「原発」の是非は自分たちで決める!

「原発県民投票」実施のための署名集めが始まります

「原発」県民投票をするために……

- 1 署名集めの協力者を募集中です!
- 2 取りまとめる方(埼玉県内市区町村)を募集中です!
- 3 カンパのご協力をお願いします!

*詳細は「原発埼玉県民投票準備会」まで
<http://saitamakenmintohyo.web.fc2.com>
TEL 048-884-3369 FAX048-611-9166



大集会の後は、川内原発再稼働反対・脱原発を訴えながら錦糸町駅までデモ行進。1万6000名の参加者が長い長い列になり沿道の人々にアピールしました。参加者の心からの大きな抗議の声は、日本中に響きわたったはず。 (宮前真知子)

「川内原発再稼働許さな! フクシマを忘れない!」 9・23さようなら原発全国大集会

9月23日に予定されていた「さようなら原発全国大集会・大行進」は、代々木公園でデング熱の問題が出たため集いを断念。3団体で主催の予定が、「さようなら原発1000万人アクション」だけとなり、会場も亀戸中央公園に変更して開催されました。朝から眩しいほどの日差しで、暑い、暑い一日となりました。参加者は続々と集まり、広い芝生はみるみる埋まり、色とりどりの幟が何百本もはためいていました。鎌田慧さん・大江健三郎さん・大石又七さん・澤地久枝さん・広瀬隆さん・落合恵子さん・福島の方たち・かごしまネットの方や、韓国・台湾の方からも力強い発言があり、心がふるえまじりました。

検察審査会東電元会長らに起訴相当を議決

先般の、福井地方裁判所の歴史的な判決に続いて、東京の検察審査会は東電元会長らに対して、起訴相当を議決した。その理由とは

- ① 注意義務 「想定外も前提とするべき」
- ② 津波の高さ 「予想を超す試算採用せず」
- ③ 浸水の影響 「全電源喪失の危険性認識」
- ④ 回避可能性 「移設、訓練で被害減らせた」
- ⑤ 安全神話 「事業者の責任、免れない」
- ⑥ 最高責任者 「勝俣元会長供述、信用できぬ」

対策、電源車、電源盤を搭載した自動車、必要機材などを高台に移設したり、シビリアルアクシデント対策として、緊急時のマニュアルの整備や訓練などもやっておけば、被害を回避し、軽減することができた。

継続した過失により、重大事故発生させた。根拠のある予測結果に対しては、常に謙虚に対応すべきで、想定外の事態も起こり得ることを前提に、対応を検討しておくべきだった。

規制当局も事業者も、耐震バックチェック等をクリアし、原発の運転停止という事態に至らないように連携していたように見受けられる。津波高15・7mという試算結果についても、単なる対処すべき数値として捉え、生命、財産に対する現実のリスクだという感覚が、希薄になっている。安全に対するリスクが示されても、単なる数値と盛るだけで、実際には発生しないだろう、原発は大丈夫だろうという、曖昧模倣とした雰囲気が存在したのではないか。

東電は、三陸沖地震の波源モデルを、福島県沖海沿いに設定するなどして、津波高を試算したところ、08年3月福島第一敷地南側で、15・7mとなるなどの結果を得られた。しかし、チェックの期限に対策が間に合わない場合、原発の運転停止のリスクが生じると考え、採用を見送り、関係者の根回しを進めたことがうかがえる。

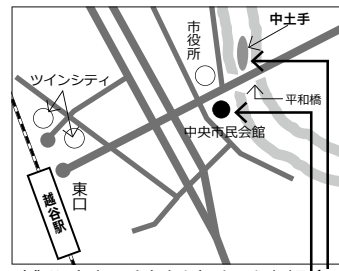
耐震バックチェックは、通すことが目的ではなく、安全性の確保に関わる事項については、特に関心をもって対応することが必要で、部下に任せるならば、安全確保を第一とする適切な指示、指導が必要だった。重要な点は、知らなかったと供述しているが、資料を見る限り、そのまま信用することはできない。(高橋正久)

06年に、保安院、電力会社による勉強会が持たれ、第3回の勉強会で、東電は、福島第一原発5号機の敷地高を1mを超える高さの津波が襲来した場合の検討状況を報告。非常用海水ポンプが機能喪失し、炉心損傷に至る危険性があること、建屋への浸水で電源設備が機能を失い、全電源喪失に至る危険性があることが示された。実際に起きた事故の教訓からも、浸水対策が必要であることは、認識できていた。

『東京新聞』(2014年8月1日朝刊)から

06年の勉強会では、想定外の事態が発生した場合の対応について、研究するために開かれた。この時点から、具体的な検討を始めていけば、蓄電池、分電盤を移設し、高圧注水系にケーブル接続することや、小型発電機、可搬式コンプレッサ、水中ポンプ等を高台に置く等の措置を講じておくことは、十分可能だった。これらを踏まえると、長期間を要さない安全

10月からは中央市民会館東側芝生広場に集会の場所が変わるかもいりませんが、平和橋から中土手に人影が見えなかつたら、中央市民会館東側の方を見てください。午後6時。待ってます!



越谷市役所東側中土手広場(平和橋下)が、中央市民会館東側芝生広場です。